

はじめに

災害に対しては日頃からの備えが重要です。“自らの安全は自らが守る”ための行動や対応をとることが被害を少なくすることにつながります。「田尻町総合防災マップ」は、住民のみなさんに防災に関する情報を提供し、事前の備えに役立てていただくことを目的に作成しました。

田尻町で起こりうる災害



近い将来、巨大地震は必ずやってきます。南海トラフ巨大地震が発生した場合、田尻町では、最大震度6弱、建物全半壊639棟、死傷者数205人の被害が想定されています。また、台風や豪雨などの水害も年々頻発化、激甚化しています。

左の写真は、平成30年9月の台風21号により発生した、吉見の里南付近の被害の様子です。電柱などが倒れ、道路が通行困難な状況となりました。町内でも、住宅被害、停電、断水が起きました。

地域ぐるみで取り組む防災・減災

防災・減災の基本は、日頃から災害に備え、「自助」「共助」「公助」が互いに連携し被害を最小限に留めることが重要です。大きな災害が起きると町・消防・警察などの公的機関は道路の確保や消火活動に追われ、物資などの支援体制が整うまでに少なくとも3日はかかると言われてしています。

日頃から地域社会や近所とのつながり、連帯感を深めることで地域ぐるみの頼れるつながりとなります。自主防災会の中心となっている地区会は、地域最大のコミュニティ組織で、地域のつながりを深め、地域に住む人々がお互いに協力し合って住みよいまちづくりのために活動しています。田尻町では、災害時の安否確認訓練など地区会が中心となって行っています。災害に備えて地区会に入りましょう。

自助 自分の命は自分で守る

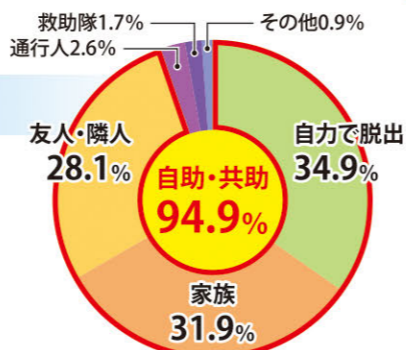
共助 自分たちの地域は自分たちで守る

公助 町・消防・警察、ライフラインを支える各社による対応

住民同士が協力して地域の防災力を高めよう

阪神淡路大震災での教訓

阪神淡路大震災では生き埋めになった人や閉じ込められた人の9割以上が自力又は家族、隣人などから救出されています(右図)。日頃からの近所つながりが災害時に頼れるつながりになります。



出典：(財)日本火災学会「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」参照

普段からの心構え

町の取り組み

田尻町では、自助、共助の力を高めるため、自主防災会が中心となり、「無事印(ぶじるし)タオル」(オレンジ色のタオル)を使った安否確認訓練を実施しています。「無事印タオル」を玄関先に掲げることで外から安否を確認することができます。ハンカチ、Tシャツなど目立つオレンジ色のもので代用してもかまいません。災害時にすぐに出せるよう、玄関付近に備えておきましょう。



非常持ち出し品・備蓄品の準備

- ▶ 備蓄品は最低3日分、できれば1週間分備えておきましょう。
- ▶ 飲料水は9リットル(1人1日3リットル)を目安に家族の人数分用意しておきましょう。

チェックリストを参考に災害時に備えよう。



食料

- 飲料水
- 非常食
- 缶詰
- レトルト食品
- 粉ミルクと哺乳瓶



救急・安全対策

- 常備薬
- お薬手帳
- マスク
- 包帯、ガーゼ、ばんそうこう
- 傷薬、消毒薬
- ヘルメット、防災ずきん



貴重品

- 現金(小銭)
- 預貯金通帳、印鑑
- クレジットカード類
- 健康保険証
- 免許証など



日用品など

- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- ナイフ、缶切り
- ポリ袋(ビニール袋)
- 食品用ラップ
- 歯ブラシ
- おむつ
- ティッシュペーパー
- 生理用品
- 布ガムテープ
- ロープ
- 軍手
- モバイルバッテリー
- 地図(ハザードマップ)



非常持ち出し品の例

- 飲料水
- 非常食
- 赤ちゃんのミルク・おむつ
- ウェットティッシュ
- 簡易トイレ
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 笛・ブザー
- ブランケット・毛布



リュックサックなどにまとめておきましょう。

「ローリングストック」を心がけましょう

ローリングストックとは、普段から使っている食材・加工品を多めに買って置き、使ったら使った分だけ買い足して、常に一定量のストックがある状態を保つことです。常に新しくなるので、消費期限切れの心配もないので安心です。

